

## わくわくモーモースクールが開催されました

神奈川県酪農教育ファーム推進委員会では、年に1回、県内の小学校で「わくわくモーモースクール」を開催しています。今年度は12月15日に横浜市立下和泉小学校で開催し、乳牛とのふれあい体験を通じて動物への関心を高め命の尊さを伝えると共に、酪農に対する理解を深めました。

当日は校内に成牛2頭、子牛2頭を搬入し、県内酪農家（10名）のほか、乳業メーカー、関係機関職員が分担して、全校児童401名を対象に「搾乳体験」、「子牛とのふれあい体験」、「バター作り体験」、「牧場の仕事」や「牛の体の秘密」などの授業を行いました。

成牛に触れる「搾乳体験」は高学年、「子牛とのふれあい体験」は低学年の児童を対象におこなわれ、児童たちは生きた牛の温かさを、肌で感じとっていました。また、低学年の児童に対しては、等身大の牛の模型を用いた疑似搾乳を体験してもらいました。

「バター作り体験」は、乳業メーカー職員が学校の放送設備のTVモニター越しに、対象学年の各教室に配信して実施しました。

「牧場の仕事」では、酪農家が講師となり、実際に農場で使用している道具や餌を紹介しながら授業をおこないました。

「牛の体の秘密」では、牛の一生や、牛乳が生産され牧場から食卓に届くまでを、イラスト入りのタペストリーを用いて、2年生と4年生の児童を対象に当所職員と畜産課職員で授業をおこないました。児童からの質問に答える中で「私、雄の牛より長生きしてる」といった児童のつぶやきも聞かれ、自分に置換えて考える豊かな感性に驚かされました。

授業終了後はスタッフ控室となった図書室で、参加した酪農家を含むスタッフ全員に給食が提供され、食後にはスタッフへのお礼として、1年生が図書室を訪問してダンスを披露してくれました。無邪気に踊る児童たちの元気な姿を見ていたら、こちらも元気を分けてもらえました。昨今の厳しい酪農情勢のなか、児童たちの牛や酪農への関心の高さや反応が酪農家にとっても励みになるイベントとなりました。

畜産技術センターでは、今後も県民の酪農への理解を深める活動の支援を続けてまいります。



酪農家による「牧場の仕事」の授業



普及指導員による「牛の体の秘密」の授業



乳業メーカーによる「バター作り体験」の授業